



院内感染対策ニュース

第83号 2020年8月19日
院内感染対策委員会

結核が増えています

新型コロナウイルス肺炎が2月に流行し始めてから6か月が経過しています。いまだに落ち着くことなく首都圏を中心に感染が拡大しています。北海道では第2波以降、感染者数は10人前後で推移していることが多いですが、夜の街関連や会食などで感染が広がっていることもあるようです。新しい感染症が蔓延する中、結核患者が増えています。釧路管内ではすでに7月までの発生件数は17件、昨年と同時期の件数と比較しても多い傾向です。今回は結核について取り上げます。

結核はどんな病気？

結核菌は抗酸菌の1種で抗酸菌は**結核菌**と**非結核性抗酸菌**の2つに分かれます。結核菌はヒト-ヒト間で感染しますが、非結核性抗酸菌（MACなど）はヒト-ヒト感染は起こりません。

結核菌は**空気感染**によってヒトからヒトに感染します。

主に肺に病変ができる肺結核が多いですが肺以外にも腎臓、骨、脳などにも起こります。

症状は2週間以上続く微熱、咳、痰、倦怠感、体重減少などです。

治療は抗結核薬を服用します。



年度別 結核発生件数 道東4管内



昨年の釧路管内での結核発生件数は1年間で20件、昨年の7月までのデータでは釧路管内は11件となっていました。今年は17件ですので、やや増加しています。ただし、無症状病原体保有者もこの中に含まれています。

新型コロナウイルス感染症も落ち着かない中、結核の増加も気になるところです。



咳エチケットを守ろう

感染経路・対策は？

結核は**空気感染**により拡大します。結核が確定したら、感染症法に基づき指定医療機関への入院が必要となります。

結核が疑われる場合も、空気感染対策が必要です。患者さんはサージカルマスク、医療従事者はN95マスクで対応してください。

N95マスクは装着したら毎回ユーザーシールチェックをしてください。

ユーザーシールチェックとはN95マスクと顔の間からの空気の漏れがないか調べ、正しく装着できているかを確認するもの。装着するごとに行います。N95マスクを装着しマスクを手で覆い息をゆっくり吐きだして息漏れがないか確認する方法です。

結核は長く続く微熱や咳などの症状が出現しますので、症状がある方はマスクを着用しましょう。空気感染するので知らないうちに誰かに感染してしまうこともあります。早めの受診と咳エチケットが大切です。



T-Spot・QFT検査とは

結核菌に感染しているか否かを調べる検査として以前はツツ反が主流でした。最近はQFTまたはT-Spot検査が主流です。当院は後者です。採血で結核菌に感染しているかどうかを調べることができますが「**いつ感染したか、わからない**」。つまり過去の感染歴も拾い上げるので、今現在感染したのかまではわからないという弱点があります。



手洗い・手指消毒実施しよう

新型コロナウイルス感染症対策のお願い

7月後半から釧路管内でも陽性者が散見され、8月中旬には9名陽性者が発生しています。外出時はマスク着用（症状がなくても）、外出後の手洗い、人ごみは極力避ける、人の手がたくさん触れる場所に触った後は手洗いや手指消毒をする等の基本的な対策を徹底してください。会食やイベント、職場内や家庭内感染も増えています。不要不急の外出もできるだけ控えましょう。

新型コロナウイルス感染症に関するお問い合わせは地域の保健所へご相談下さい。また、新型コロナウイルス感染症の感染が疑われる方は「帰国者・接触者相談センター」にご相談下さい。

くれぐれも、直接医療機関へ赴くことはお控え下さい。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

